



Malaysia

グローバル・データセンター、グローバル・クラウド・ハブ
拠点としての魅力

何故マレーシアか

- ・東南アジアのハブ、周辺ASEAN諸国への移動便利
- ・優れたビジネス環境
 - 地震、台風、洪水等の自然災害がない
 - 安定した政情、テロ・デモ等社会脅威が少ない
 - 極めて親日的
- ・安価なビジネスコスト
 - 賃金水準、電力コストは日本・シンガポールの1/2
 - オフィス賃料は日本・シンガポールの1/3
- ・多言語(特に、英語・中国語・マレー語)を扱える
優れた人材豊富



日本企業のデータセンター戦略 共通テーマ

視点:

- 業務の標準化、ITガバナンス強化のため、グローバルな活動の中心地へデータセンターを集約できないか？
- BCP強化のため自然災害のない地域へデータセンターを移転、ないしDRセンターを設置できないか？
- 運用コスト削減のため、コストの安い国へデータセンターを移設できないか？

立地:

- 日本 or 海外(特に、アジア)

日本企業のデータセンター集約化の事例

- **日本のシステムをアジアへ移設：**

ソニー（シンガポール）、サントリー（シンガポール）、OKIデータ（マレーシア）

- **アジア地区のシステムをアジア地区のDCに集約：**

パナソニック、ヤマハ発動機、HOYA（シンガポール）、日本通運、富士エレクトロニクス、リコー（香港）、ホンダトレーディング、三井化学（バンコク）

- **海外システムも含め日本で集約化：**

カシオ計算機、クボタ、三洋化成、帝人、ヤマトホールディングス、OCS他

→ **コスト削減の可能性があれば海外移設への関心も高い**

（例）「BCP強化のため将来は、日本のシステムのバックアップを香港などのDCに置いたり、コストが安く災害がない国のDCへ日本のシステムを丸ごと移したりすることも検討していく」 — 全日空グループ物流会社OCS

（日経コンピュータ、2012年10月25日号 より抜粋）

データセンター海外立地化の問題点

これまでの問題点（2012年まで）

- 日本並みの品質が確保できる香港、シンガポールへの移設ではDCの直接コストの削減は困難。かえってコストアップとなる場合が多い。
- マレーシアは、DCの直接コストは、日本・シンガポールと比べかなり割安だが、直接陸揚げされている海底通信ケーブルがなく、通信コストが高い。

➡ 海外移転組は少数派

（日経コンピュータ、2012年10月25日号 より抜粋）

(参考)データセンター立地条件比較 (2012年まで)

国・地域	自然災害リスク	カントリーリスク	電力インフラ	電気料金	通信インフラ	通信料金	DC料金
香港	台風は来るが、大地震はない	中国の一部だが特別行政区	安定供給	日本並み	品質安定、海底ケーブルの陸揚げ多数	ローカル回線の選択肢が多く安価	日本並みに高い
タイ	洪水が多い	政情不安、大規模デモ	停電がある	日本より割安	海底ケーブルの陸揚げが少ない	ローカル回線の選択肢は多いが高い	日本より割安
シンガポール	大地震・津波・台風なし	政情安定	安定供給	日本並み	品質安定、海底ケーブルの陸揚げ多数	ローカル回線の選択肢が多く安価	日本並みに高い
マレーシア	大地震・台風なし	政情安定	IT特区などは安定供給	日本より割安	海底ケーブルの陸揚げが少ない	ローカル回線の選択肢が少なく高い	日本よりも、かなり割安



すべての条件を満足させる海外立地がない。

出展：日経コンピュータ、2012年10月25日号

2013年における新たな展開

2012.4Q、マレーシアと日本およびアジア諸国を直結する海底ケーブルが開通 → 2013年に入り、マレーシアの通信事情が大きく変化



Asia Submarine Cable Express (ASE)

- ・ 総容量: 1.5 Tbps
マレーシア回線容量: 40Gbps
- ・ NTT Communications, Telecom Malaysia, Star Hub (Singapore), PLDT (Philippines) 共同構築
- ・ 2012 / 4Q 営業開始

マレーシアと日本およびアジア諸国を結ぶ国際回線の、品質、コストが大幅改善。

国際回線接続
新ルート(直結)

従来の国際回線出口
(シンガポール経由)

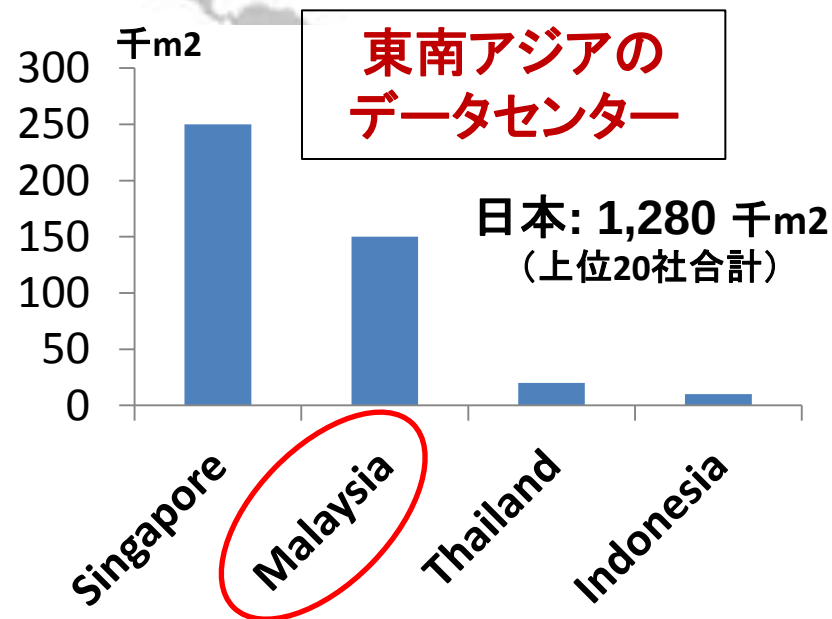
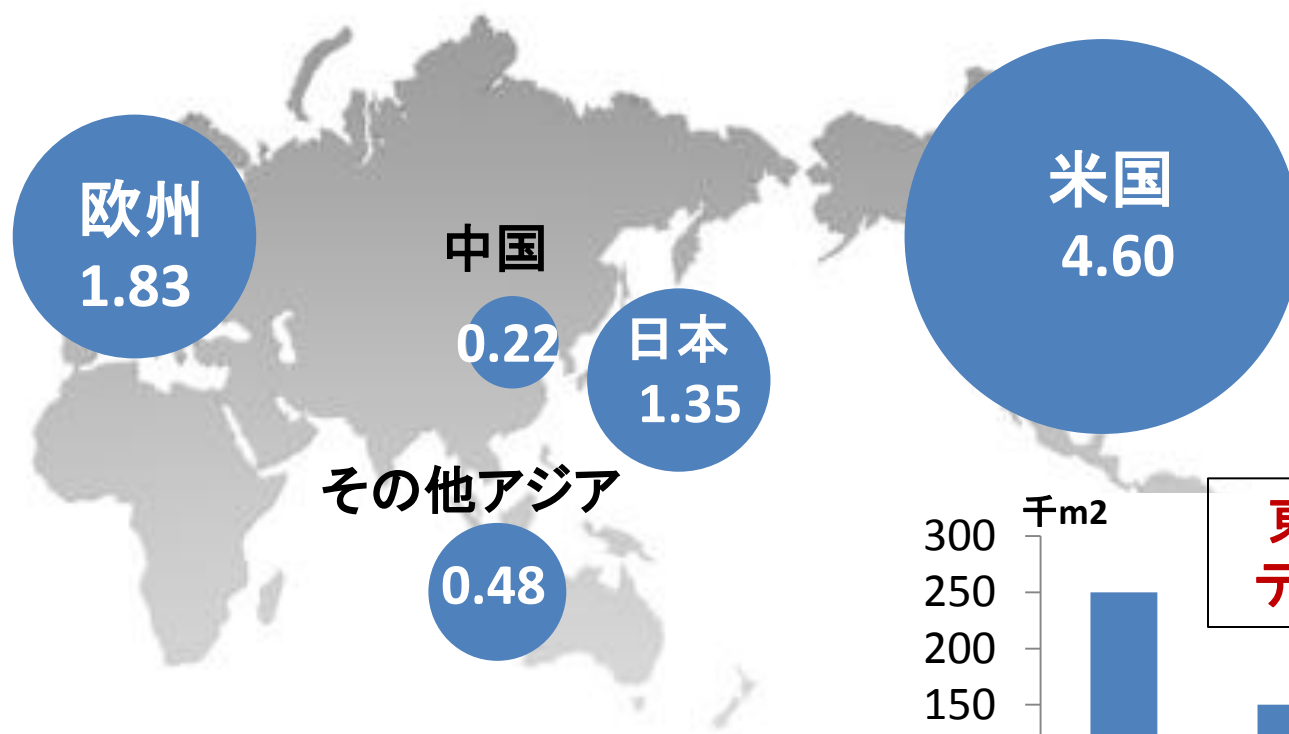
データセンター立地条件比較 (2013年)

国・地域	自然災害リスク	カントリーリスク	電力インフラ	電気料金	通信インフラ	通信料金	DC料金
マレーシア	大地震・台風なし	政情安定	IT特区などは安定供給 グローバル・ハブ・DCはIT特区に設置	日本より割安	海底ケーブルの陸揚げが少ない ↓ 日本およびアジア諸国に直結する海底ケーブルが開通	ローカル回線の選択肢が少なく高い ↓ 競争環境変化により、海外とIT特区に設置されたDCを結ぶバックホール回線のコストが大幅低下	日本よりも、かなり割安

➡ マレーシアの活用により、日本並みの品質を維持しつつ、政治リスクのない地域で、災害対策を実施しながら、DC直接コストの削減も実現できるDCの海外移転が可能に。

(参考)世界のデータセンター市場規模

単位:兆円





NTT MSC 社 データセンター



CSF 社 データセンター

Thank you



マルチメディア開発公社

日本代表 杉山 尋美

Email: sugiyama@mdec.com.my

